

『テレコム・メルトダウン』



エリ・ノーム/ローレンス・レッシング/リチャード・A・エプスタイン/トーマス・W・ヘイズレット 著
国際大学 グローバルコミュニケーションセンター/
土屋 大洋/砂田 薫/霜島 朗子/小島 安紀子 訳
公文俊平 監修
ISBN : 4-7571-0148-1
定価 : 本体2,800円+税
NTT出版

めまぐるしく変化した米国通信業界 IT大国の苦悩を伝えた学界人の意見書

富樫 純一 (大神企画代表、編集者)

かつてのテレコム産業といえば、電報と電話が事業の柱だった。ところがこの10年、通信業界はめまぐるしく変化し、あっという間にインターネットと無線通信の時代を迎え、事業の中心も大きくシフトした。

だが、旧態依然の法規制は今もって亡霊のごとく存在しているし、インフラは既得権ビジネス、サービスは過当競争という厳しい業界になってしまった。これは、日本だけの話ではない。世界一のIT大国、米国も同様の苦悩を抱えているのである。

本書は、そうした米国の情報通信政策について、オンライン版ファイナンシャル・タイムズ「FT.com」に寄稿されたコラ

ムを集めたもの。執筆者は、米国の学会に籍を置く著名な論客たちである。

全5章、36のコラムで構成されているが、私がとくに興味を持ったのは「独占は本当に悪なのか？」のくだりである。相次ぐ規制撤廃が逆に集中化をもたらし、巨大メディア企業による寡占化が進む……。そしてドットコム企業、さらにはマイクロソフトの独占を罪とするのは間違いという意見だ。ビジネスに成功し投資が集中したら、独占禁止法を免れるために企業を分割しなくては行けないのか……。

版元が日本の巨大テレコム企業系出版社であることも、本書からのメッセージとして受け止めたい。

『逆転戦略 ウィルコム 「弱み」を「強み」に変える意志の経営』

革新的企業へと変貌を遂げるウィルコム その新PHS事業の全貌が明らかに

増田 真樹 (ジャーナリスト)

通話品質が良く、通話料も安い。「持ち歩ける固定電話」という触れ込みで1994年に登場したPHSは、メールを皮切りに、データ通信サービスやデジカメといった、現在の携帯電話のカルチャーの先頭を行く存在だった。しかし、1997年9月、PHSの3事業者の加入者数合計が706万契約に達した後、下降に転じ、2005年1月の450万契約まで落ち込み、市場は縮小した。先進的で将来性もある。PHSがなぜ縮小したのかという疑問の答えを徹底的に追求し、そこにイノベーションを見いだしたのが新生ウィルコム(旧DDIポケット)である。

ウィルコムは大幅なリストラを行うことなく、筆頭株主をこれまでのKDDIから

カーライルグループに変え、京セラとともに経営革新を計った。その効果は、2月2日のサービス開始以降すぐに明らかになる。体感速度が数メガとなるデータ通信サービスやユーザー間の通話を定額にするプランを次々に発表し、翌月には契約者数の伸びを反転。ユーザーが増えるほど定額制の効果が働いて月額料金が下がるバイラルマーケティングを使い、爆発的な盛り上がりを見せようとしている。

しかしながら今や携帯電話一色の時代。色あせたPHSに勝算はあるのだろうか。この本は、PHSが携帯電話に駆逐された歴史に始まり、再び逆転しようとする今までにない革新的イノベーションを追ったドキュメンタリーである。



鈴木 貴博 監修
ISBN : 4-478-31213-3
定価 : 本体1,700円+税
ダイヤモンド社

本でしか得られない知識がある。
今月の、お勧め、お役立ち、元気になる書籍。

『情報のみかた』

伝統文化や数学から情報の扱いを学ぶ
大人にも読んでほしい「情報化社会」の教科書

森山 和道 (サイエンスライター)



山田 奨治 著
ISBN : 4-335-55102-9
定価 : 本体 1,800 円 + 税
弘文堂

コンピュータの原理や使い方を知ることだけが情報についての勉強ではない、と著者は語る。本書は小学6年生～中学生を対象にした「情報」についての本だ。浮世絵や仏像の顔を数量化することで分析手法のパワーを示し、江戸時代の興行で使われた「役割番付」や「双六」から、情報と情報のつながりの背景にある見えない構造を見出す手法を紹介する。さらに「見立て絵」から情報と情報のつながりの奥深さを説き、連歌や本歌取りからディズニーなどの著作権主張を批判する。かなりユニークな本である。

文章はやさしい。中学生なら読み進んでいけるように書かれている。内容も、標準偏差や度数分布などが出てくるが「分

析と直感」「データのばらつき」など簡単な内容から徐々に高度なものに進むように書かれているので一度数学を学んでいる読者ならば難なく読み進める。全体的に、むしろいろいろ経験を積んだ大人の読者のほうが頷ける部分が多いと思う。

情報とは言葉や数字だけのことではない。著者は日本の情報文化にとっては「座」という対面コミュニケーションの場が非常に重視されていたと指摘している。人と人のやりとりから、個人の能力だけでは成立しないものが生まれるのだと。最近人気の「コミュニティー」やSNSも「場の文化」の後継者と考えることもできよう。何があれば場になるのかを考えてみたいと思った。

『情報セキュリティと法制度』

ユビキタス社会で重要度増すセキュリティー
求められるのはテクノロジーに即した法制度

山川 健 (ジャーナリスト)

インターネットの普及が始まった1995年頃から、法制度はテクノロジーについて来ていない。今では誰もが犯罪だと理解している不正侵入も、2000年2月に不正アクセス禁止法が施行されるまでは罪に問われなかった。ユビキタス社会を目前にした現在でも、状況は大きく変わっていない。法律は新技術に対して常に後手に回っている。

確かに、現行法を拡大解釈しながらネット犯罪を罰したネット黎明期とは違い、不正アクセス禁止法をはじめ、電子署名法、改正不正競争防止法など、実態に即した立法化は進んでいる。それでも急速な技術の進歩や、新サービスには追いついていないのが実情だ。

形ある物 = 有体物が価値を持つ時代から、情報が「財」となる社会に変化し、情報が主役になるユビキタス社会に向かって突き進む今ほど、情報セキュリティーが重要視され、情報法制度が必要とされている時はない。

本書は各章読み切り構成。各章で法整備、政策、電子商取引、デジタル商取引に関し、具体例を挙げながら情報セキュリティーの問題点を解き明かす。ネットの危険性を叫ぶあまり恐怖感を与えがちな他のセキュリティー関連書籍とは異なり、アカデミックな視点から情報セキュリティーのあるべき姿や、ユビキタス社会での安全なビジネスの方策を示唆している。



東倉 洋一 / 岡村 久道 / 高村 信 / 岡田 仁志 /
曾根原 登 著
ISBN4-621-05368-X
定価 : 本体 760 円 + 税
丸善ライブラリー

補 足 情 報

著者連絡先

増田 "maskin" 真樹

ウェブサイト:<http://www.metamix.com/>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp